

今後の地域の会のあり方について

浅賀千穂

色々と考えてみましたが、「今後のあり方」は難しいです。

スタート時の事を常に考え、透明性を確保することが、会の意義だと思いますが、原発をとりまく事象が次々と起こるので、その都度、冷静に客観的に考えることが必要だと思います。

その為に24名の委員が立場が違って意見を出し合う事が必要なのだと考えました。

今一番、気になっている事を1つ書きます。新野会長は平等に委員一人一人の意見を尊重されていますが、武本委員の資料請求に対しての説明は、全委員が希望されない限り短時間で良いのではないのでしょうか。

会の性質上、1回毎にまとまる事ありませんし、方向性を見いだすことも大変難しいので、時間制限をしっかりとった方がよい様に考えます。

阿部尚義

原子力発電所の透明性を確保する地域の会の活動に参加しまして今日までの雑感を申し上げます。会の趣旨と目的について活動内容や活動の結果に事の難しさを感じております。不祥事、不正、事故、トラブル等々に端を発した会であります。再発を防止し、また防止するために透明性を確保するという位置づけであると理解しています。市民レベルの疑問を解消し、市民レベルの不安を明らかにした解消する。市民の気持ちに立った意見を述べて、チェック機能を働かせる。市民が必要とされる説明を求めていく。等々言うは易し行なうは難しであります。しかしながら、達成感や充実感は今ひとつ実感できていないのが率直な気持ちであります。

「透明性を確保」して市民レベルでの安全性や安心感を得ていければよいのではないかと考えていますが、安全性や安心感を高められたのか、また高めていくことが出来るのか考えさせられます。「透明性を確保」してどのような原子力発電所にしていくのかまだまだ課題がたくさんあるように思われます。

私としましては、ここまでの会での経験を各地域や団体、個人に蓄積としてお持ちいただき会としての活動は一旦休止して、今後必要あらば再度、会を立ち上げていけばよいと考えています。

視察の希望につきましては、千葉の放射線医学研究所を希望します。

理由は 放射線について学べること 平和利用について学べること 放射線と医療について学べること 立地が便利でアクセス含め視察に適していること。

新野良子

10ヶ月近く会の運営・議事進行に当たり、事の難しさを実感しております。あえて、会の終了を時間で切らないで済ませましたが、そろそろ議事内容や発言に、この会としてのルールを合意を得ながら設け、来年度につないでいきたいと考えています。

この会は、あくまでも市民の目線から離れることなく、発電所が存続する間、いかに共存すべきかと自由に語れる場であるべきだと思います。

これまで長時間かけて論じてきた事で、各々の委員の考えや立場もやや理解できましたし、これまでの時間は、けっして無駄ではなく必要な時間だった様にも思います。そして、直ぐに何か結果が出せる会でもないはずで。

スタート時に不当に脚光をあびすぎたことと、それから続いた様々な事象が、仕事量を大きくし、荷を重くもしてしまいましたが、あらためて、コミュニケーションの大切なこと、難しさを感じています。一人一人の一言がほんとうに大切なのだと思いますので、何か発信して下さい。そこから始まると思います。

伊比隆

放射能という大きなリスクを有する原子力発電所の安全、管理の状況を透明に高めることが重要な課題として、足手まといを承知の上、失礼ながら参加させてもらった。多様な考え方の

メンバーの集まりで、会の運営に当たっては事務局・運営広報委員会の皆様のご苦勞は大変なものであると思う。

意見交換では、お互いの意見を尊重するという委員同士の相互理解は深まったと感じている。特に知識の高い委員は自分自身のような知識不足の者に対し、目線を下げ、時には足踏みをしながらの発言が多々あることに感謝している。

今後の会の運営については、当分の間、現状のとおりで良いと思う。運営広報委員の方々、ご苦勞様ですが、討議の上、議題を準備願いたい。又、定例会当日の議題については、予定時間内で終了されるよう配慮頂きたい。

今井長司

定例会は年間6回位で良いと思う。

委員の数が多すぎると思われる。半分位まで減らしてはどうか。

金子彰夫

- ・ 次回より案内状に終了時刻を明記してください。
- ・ 6時30分開始にしたのですから9時には終了してください。
- ・ 終了5分前には委員の発言を終わるように議事運営をしてください。
- ・ この会は学術論議をする会かどうか運営委員会でよく協議してください。
- ・ この会は「会があること、会が存在していることが重要」なのであって番ごと技術論や学術論をしなくてもいいのではないか。

川口寛

- ・ 委員24名は多すぎると思います。15名くらいが良いのでは。
- ・ 住民の反対する人の比率を考えれば、反対派の人は2名くらいで良いと思います。
- ・ 運営、委員の選人は市でやってもらいたい。
- ・ マナーを守らずに時間を取りすぎる人は、自粛してもらいたい。
- ・ 終わりの時間はあまり伸ばさないでほしい。

小山進

運営委員の皆様のご苦勞に感謝申し上げます。

中越地震で、総合防災訓練が中止になったことが大変残念です。近いうちに、総合防災訓練が実施されることを願います。

共生する地域として、防災についてもっと勉強して、会として行政・地域に訴えてもいいのではないか。

佐藤正幸

- ・ 欠員は補充する。
- ・ 委員は現行の人数でいいと思うが、来年度は募集枠を2~4名程度入れて議論を活性化してはどうか。
- ・ これからの議論の中味としては、
今回の地震を経験として、公開・非公開を繰り返して議論の必要があるのではないか。
非公開の勉強会としてフリー討論で、日中半日くらいかけて原発の争論をやっていいのでは？問題提起は内部で賛成反対相方でやってもいいと思う。

柴野健蔵

任期も残り僅かとなりましたが、これまでに感じたことを列記します。

1. 定例会が毎月開催されたが、今後は隔月でよい。
2. 定例会の時間が長すぎる。
3. 質問あるいは意見が専門的な内容になりつつあるが、一般市民のレベルではない。
4. 基本的に原発反対の考え方の意見が定例会の議題になっている様に感じられる。
5. 次期会員は総入れ替えして、新しい視点で見ると一つの方法と思う。
6. 広報誌(視点)の住民の意見は掲載不要と思う。

武本和幸

改選を機会に、委員に一定数の公募枠を設けて欲しい。さもなくば、誰が何を基準に委員を選定したのかと批判されると考えるので。

選定は難しいと思うが、一定の意見を付してもらい(400字程度か)、運営委員会で決定する(推進反対中間各一人程度)ということでしょうか。

高橋保司

これまでの活動について

- ・ 地域住民の目線で原発に関する提言、批判は十分に意義があったと思います。
- ・ 推進・反対に関係なく、一同に会して議論することは、原発が存在する限り続けるべきだと思います。
- ・ 会議に出席しながら勉強させてもらった、というのが現実で、自分の方から積極的に動いた、ということは地域の人たちのいろんな考えを聞いたことくらいです。それを会議に反映させるだけでも機能を発揮できたのではないかと考えています。国も東電も耳をかたむけてくれて、やりがいを感じました。
- ・ 推進派の旗色があまり芳しくない現状ですが、それは現実として受けて、参加すべきだと思います。

田辺忠弘

非常に運営の難しい会だと思います。良くここまで続けてこられたな～。事務局の苦勞に感謝です。会に対して色々批判もありましたが、私はそれなりに市民、世間には評価されたのではないかと思います。

これからのこの会のあり方ですが、原子力発電所がある限り何らかの形で市民レベルでの監視を続けて行くべきではないかと思っています。

中沢洋一

国の原子力委員会は核燃料政策を維持する方針を打ち出し、六ヶ所村の再処理工場が動き始めました。行き場のないプルトニウムが溜まるばかりです。この核燃料サイクルの問題について地域の会での学習を深めることが今大変重要と思っています。是非とも全員で学習する機会を設けて下さい。

地域の会の定例会は現在平日の夜に設定されていますが、仕事の都合で出席できない人がいたり、また時間の制限もあり、十分時間をかけて議論できなかつたり、不都合な点があるように思います。

そこで、定例会を休日(土、日)の出席しやすい時間帯を選んで設定してみてもいいでしょうか。皆さんのご一考をお願い致します。

中村節子

情報誌視点第10号について

地震後の発行であった為、読まれた方々から非常にタイムリーで分かり易かったと意見をお聞きしました。

本間保

東電などにフランクに話をできる気持ちがないので、カラ回りしている印象が強い。

官僚のような答弁に終始するので、話が進まない。委員としては、無力感を感じる。

〔1例〕先回の定例会で、ホットラインの当直が、発電所内に居ないことが判ったが、地域の会ではノラリクラリと論点をずらした発言しかしなかったのに、その後の新聞報道では、今後は発電所内に居ることになったようである。

所内に居ない事がマズイと思ったら(その場で決定は無理だろうが)素直に話をして、必要なら持ち帰って検討する位の回答はできないのだろうか？

牧 豊

役員会のご努力、評価いたします。ご苦勞様です。問題発生後の対応が早くて驚いたこともありました。例えば、現場視察など。

定例会のはじめに、行政の報告がありますが、「東電原発から何があり、どうしたか」に限

ってやるようにして、行政一般の報告は無用と思います。(原発に関する行政のこと)
保安院、東電側の発表、説明を聞くだけで、委員会としてどう受け止めるかの論議ができなかったと思います。発表の内容に理解できなかったこと、疑問をいっぱい残してしまいました。委員間で理解を補い合うような場がほしいと思っています。
現場視察は有意義でした。これからも大いに活用願いたいと思います。
任期満了で、委員の大幅入れ替えが予想されます。重たい任務なので、そうならないでほしいと思っていますが、交替が最小限になるようなことを話し合う機会が必要ではないでしょうか。

丸山将孝

原発推進・容認派の人の意見が出る事も少なく、反対派の意見が多く出され、マスコミもそれを大きく取り上げ報道する事が多いが、あまり良い雰囲気ではないと感じます。

宮崎孝司

1 「地域の会」のこれまでの意義

- ・少なくとも委員の疑問に、行政と事業者から答えてもらう機会が定期的に来た。
- ・原発の仕組みが少しずつでもわかってきた。
 - a 科学技術の粋を集めたとは聞いていたが、人間くさい職人技に頼っていることがわかった。
再循環配管のヒビ：検査は手作業、圧力抑制プールに異物：検査・回収は潜水作業、緊急事態の通報：当番まかせ
 - b 仕組みが複雑かつ膨大なため、安全の維持は危険と隣りあわせであること。
シュラウドのヒビ防止に水素注入：復水器で水素除去、余熱系装置配管爆発
 - c 安全点検に事業者以上に詳しい機関がない。
「検査」は事業者任せか行政の追認。事故原因も第三者機関を作らない。
- ・原発は放射能の危険を伴うほかに軍事的標的としての危険があることも「会」の話し合いの中からわかってきた。また、地震、雷等自然災害時の二次災害発生源になることもわかった。

2 原発の危険性

- ・老朽化
- ・使用済み核燃料の増加
- ・過酷事故または地震、風雪、水害、夜間の時の事故(情報・交通・インフラ途絶時)

3 原発と共生する住民の関心

- ・大地震の際の原発停止を(震度5以上は、立ってられない。物が倒れる。)
- ・過酷事故時の防災に疑問
- ・事故が止まらないことへの不安と不満

「地域の会」のこれからの課題

これまで、確認してきたことが、どのようになっているのか明らかにしてもらう。
シュラウドのヒビ・再循環配管(進展と箇所)、放射線作業従事者の追跡を知る。
柏崎刈羽原発が、4~5年で満杯となる使用済み核燃料の扱いを知る。
情報・交通・インフラ途絶時の防災訓練の仕方を知る。
地震に強い原発が明らかにする。

4 「地域の会」の活動のあり方

(1)テーマの取り上げ方と委員のあり方

- ・反対派であれ推進派であれ、今原発が「人畜無害」に運転されることを期待して

いる。安全な運転を求めて、テーマを提供するのが委員の責務。テーマが多く、調整するほどであれば、取り上げるとか、上げないとか言ってもよいが自分の関心になっていないから取り上げる必要がないなどというのはいかがなものか。求めるべきテーマがなければ、原発の理解を深める機会と考え参加すべきと思います。

(2)学習のテーマ 原発の複雑な仕組みを知れば知るほど安全を求める気持ちになる。

仕組みと事故 原発の危険性について 「万一に備えて」の解説

(3)透明性を求めるために

国、県、市、事業者が今行っているように、経過説明は欠かさず行ってもらいたい。

(4)危険（安全運転）に対する提言

すべての委員が意見を言い合えば、もっとも危険な事に差異はなくなる。

まとめられるときはきっと来ると思います。

吉田巖

先日の地震時に於ける東京電力の連絡の空白時間は理解に苦しむ。それぞれの職域にある人の真剣味を問う。

専門的な事は全然わからない。失格かもしれません。

渡辺五四六

- ・ 東京電力の不祥事をきっかけとして、発足した地域の会は、原発に対して全く異なる立場をとる方々を含めて構成されています。その意味では注目すべき組織であると思います。
- ・ この2年間、電力会社を初めとして、行政も含めて各種問題に対して不十分な対応であったことが指摘されてきたと思います。地域住民の皆様には存在及び活動があまり知られていない様ですが、関係者の皆様には緊張感をもたざるを得なかったと思います。そんな意味で地域の会の存在価値は十分にあると思います。
- ・ 私は当会に出席をする事で、更に新たな知識を得てきました。発言もできるだけしたいと思うところです。
- ・ 地域の会は発足経過からしても、苦言が多くなることは、やむを得ないことと思います。

渡辺丈夫

地域の会委員として今後の着眼点は、

1. 事業者が信頼回復に向けて発表した、社内体質改善や保障活動が実行されているかの確認・監視活動及び、評価が必要と思う。
 - 1) 事業社内部の不適合処置件数の推移と変化の確認
 - 2) マニュアル・文書管理の進捗状況
 - 3) 第三者機関の定期安全管理検査に於ける、不適合指摘内容の把握等決めたこと、決められていることを着実に実施しているかをどのように検証するのか。
2. 原子力安全・保安院のチェック機能や指導力の評価が必要と思う。
 - ・ 従前に比べ、立地地域住民への「安全」「安心」が確保されているのか。

渡辺洋一

これでようやく信頼されるかと思うと、又事故が発見されました...と裏切られた感である。本当に悲しくなります。

この度の事故は核拡散に通じないからと言うが、小さな事故の裏には、取り返しのできない事故が隠れている...と思うとせつない。

原子力建設、運転から30年余が経ったが、この施設設備に耐久性があって、くずれてきているのではないかと素人ながらの感想をしるす。